

群馬県藤岡市中大塚方言の立ち上げ詞

新井 小枝子

I. はじめに

1. 調査対象地：^{なかおづか}中大塚地区は、市街地の周辺に位置するに農村地帯の地域である。すぐ近くには、長野方面に向かう上信越自動車道と、新潟方面・東京方面に向かう関越自動車道のジャンクションあり、加えて、比較的広い土地の確保が可能のため、大きな工業団地をかかえる。伝統的な生活文化（お正月、春のお祭り、秋のお祭り、冠婚葬祭における地域単位のお振る舞いなど）は、きわめて簡略化されてきてはいるものの、いまだ継続して行われており、地域の人びとのつながりは強い。近年では、中大塚地区への移住者も少なくはなく、伝統的な生活文化を残す地域も少しずつ変化してきているようすもうかがわれる。
2. 調査年月日：2005年8月6日／2006年1月7日
3. 話者：新井紀義氏（昭和16年1月24日生、藤岡市中大塚の生え抜き）
話者の内省がしやすいように、齊藤和男氏（昭和24年生、言語形成地は藤岡市矢場）に同席していただいた。立ち上げ詞に関する中大塚方言と矢場方言との大きな差は確認されなかった。
4. 調査者・調査場所：新井小枝子（言語形成地 藤岡市中大塚方言）・話者宅
5. 調査方法：統一調査票による質問調査
6. その他：①各調査項目において、調査者が場面設定をして調査文を示した後に話者が自然に発話した文表現を記述するが、複数の文表現を採録している場合、記述の順序は話者の発話順にしたがっている。いずれも、同じような頻度で、ごく自然に用いられている表現であることを確認した。
②調査項目において、誘導をするなど、質問の方法を変えても話者から発話が得られなかった場合には、「×無回答」とし、その後ろに、立ち上げ詞の発話とは別に内省された、話者からの情報を記す。
③アクセントは、高く発音される拍の上に線を引いて示す。
④立ち上げ詞に対する特記事項は、文例の後に〈 〉を付して記す。
⑤立ち上げ詞に関係して現れた方言事象や情報は、※を付して記す。

II. 調査結果

I. 自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発進する「立ち上げ詞」

(1) どっこいしょ。一休みしよう。

○ドッコイシヨ、サー ヒ下ヤスミ スンペー。どっこいしょ、さあ休もう。 / ○ア

ー 下ッコイシヨ ヤスンベー。ああ、どっこいしょ、休もう。 / ○アー ヤレ ヤレ ヤレ ヤスンベ ー。ああ、やれやれ、休もう。

(2) どうれ。出かけることにしよう。

○サーテト デカゲルカ。さてと、出かけるとするか。 / ○ヨーシ デカゲルカ。よし、出かけるとするか。

(3) よいこらしよ。とうとう山の天辺に着いた。

○アー ヤレ ヤレ、ヤッ下 ツイタ。ああ、やれやれ、やっと着いた。

(4) しまった。もうちょっとで落ちるところだった。

○アー オッカナカッタ、モースコシデ オッコテル トコダッタヨ。ああ、怖かった、もう少しで落ちるところだったよ。 / ○オットー。おっと。

(5) くわばらくわばら。恐ろしかった。

○ウワー イノチピロイ シター。うわあ、命拾いをした。 / ○アー オッカナカッター。ああ怖かった。

(6) しめた！今度の魚は大きいぞ。

○オッ キダッ、コンドノワ デッゲーゾ。おおっ、来たっ、今度の大きいぞ。

(7) ままよ。飛び越えるしかない。

○ヨシッ イダゾッ。よしっ、行くぞ。

(8) なにくそ！負けてなるものか。

○クゾッ、マケテ タマルカー。くそっ、負けてたまるか。

(9) しめしめ！誰も気がついていない。

×無回答：内省が不可能であるとのこと。「しめしめ」は使用語ではない。

(10) ちえっ。つまらないなあ。

○アー ショーガネー 子ー。ああ、しょうがないなあ。

(11) ちくしょう！仕返しをしてやる。

○コフヤロー。この野郎。

(12) くそっ！覚えていろ！

○コフヤロー、イマニ ミテロ。この野郎、今に見ている。

(13) おやおや、いったいどうしたの。

○アレ アレ、下シタン 下シタン。あれあれ、どうしたの、どうしたの。 / ○子ニガ アッタンダ。何があったのだ。

(14) えへん、えへん。吾輩は村一番の力持ちじゃ。

×無回答：「いばったり得意になったりという態度」は見せないのが美德であるとのこと。

(15) はてな、ここはどこだろう？

○アレー ココワ 下コダイ、下シタラ ヨカンベナー。あれえ、ここはどこだよ、ど

うしたらいいだろうな。

II. 他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

(16) はい、承知いたしました。

○ハイ、ワカリマシタ。はい、分かりました。 / ○ハイ、ショーチシマシタ。はい、承知しました。

(17) はい。宜しゅうございます。

○ハイ、ダイジョーブダト オモイマス。はい、大丈夫だと思います。

(18) ええ、ここに居ます。

○ハイ ココニ オイデンナリマスヨ。はい、ここにおいでにないますよ。

(19) んだ。私の傘です。

○アー オレノダ。ああ、俺のだ。 / ○ゾーネ。そうね。

(20) さよう、さよう。あなたの言う通り。

○アー ナルホドナー。ああ、なるほどなあ。

(21) ほいきた。おやすいご用です。

○ハイ、マッテマシタ。はい、待っていました。

(22) よっしゃ。やりましょう。

○オッ、マカシトケ。おっ、任しておけ。

(23) よしきた。お引き受けいたしましょう。

○アー イーヨ、ヤッテヤルヨ。ああ良いよ、やってあげるよ。

(24) がってんだ。一緒に行きましょう。

○ジャー イゴー イゴー。では行こう、行こう。

(25) かっぱのへだ。簡単だ。

○ソナンワ アサメシメーダ。そんなのは朝飯前だ。

(26) いえいえ、とんでもございません。

○イヤー、コッチコソ ソンナニ ゴテーネーニ ㊦ー…。いやあ、こちらこそ、そのようにご丁寧になえ…。〈文末部分をはっきりとは言わず、にごしてしまう〉

(27) なんの、たいしたことではございません。

○チーニ、ソンナコター ㊦ーヨ。何、そのようなことはないよ。

(28) なあに、擦り傷ぐらい、すぐ治るさ。

○コンチン ヘッチャラダヨー。このような、平気だよ。

(29) なにさ、いつも調子の良いことばかり言って！

○マッタク イツモ チョーシフ イーコト ベー イーヤガッテ。まったく、いつも調子の良いことばかり言いやがって。

(30) いやはや、とんだ目に遭いました。

○イヤー、ソフコト トンダ ヌニアッタ。いやあ、そのこと、とんだ目に遭った。

(31) へん、勝手にしやがれ。

○フン、ソレナラ スギニ シロイナ。ふん、それなら好きにしろ。 / ○フン、ソレナラ スギニ シチイネ。ふん、それなら好きにきなさい。

(32) なめるんじゃねえよ。こいつ！

○ナメンジャ ㊦ーヨ コノヤロー。嘗めているのではない、この野郎。

(33) 冗談じゃない。口から出任せを言って！

○イーカゲンニ シロー。クチカラ デマカセ イーヤガッテ。いい加減にしろ。口から出任せを言いやがって。

(34) だまらっしゃい。出鱈目ばかり言って！

○ダマレ、ネゴト イッテンジャ ㊦ーヤ、ヤカマシー。黙れ、寝言を言っているのではないや、喧しい。

(35) そうは問屋がおろさねえ。黙っていらねえ。

○ソナナコター アツタリメーダンベネ、チガウヨッ。そのようなことは当たり前だろうね、違うよ。

(36) うそもヘチマもありやしねえ。我慢できねえ。

○ネゴトベー イーヤガッテ。寝言ばかりを言いやがって。 / ○タゴト イーヤガッテ。戯言を言いやがって。

(37) 寝言は寝ていえ。このやろう。

○ネゴト ユッテンジャ ㊦ーヤ。寝言を言っているのではないや。

(38) あたりきしやりきのけつあな。当たり前だ！

○アツタリメーダンベナ。当たり前だろうな。

(39) きみようきてれつだ。それは変だ。

○イナ コト ユーチー。異なることを言うなあ。

(40) ほほう、それは親孝行なお子さんですね。

○ハーッ。はああっ。

(41) まいったまいった。しかたがない。

○アー マイッタ マイッタ。コレジャー ㊦ーショモ ㊦ーヤ。ああ参った、参った。これではどうしようもないや。

Ⅲ. 他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」

(42) もしもし、すみません。役場はどこにありますか。

○チヨット オキキキシマス。ヤクバワ ㊦コデスカ。ちょっとお聞きます。役場はどこですか。 / ○チヨット スミマセン。ヤクバワ ㊦コデスカ。ちょっとすみません。役場はどこですか。

(43) のうのう、旅の人。お立ち寄りください。

×無回答：「イメージがわからず内省ができない」とのこと。

(44) ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。

○アンター チョット、チョット。アッチニ コーエンガ アルデー。あなた、ちょっとちょっと。あちらに公園があるぞ。／ ○ネー ねえねえ。

(45) やいやい。こんなに朝早くからどこへいくんだ？

○ヨー ヨー、下コ イゲン。よおよお、どこへ行くの。

(46) よう、兄弟。これから何をするつもりだい？

○オーツ、X、チニスンダイ。おおっ、X、何をするのだ。(Xは親しい間柄の人を表す語、またはそのような人物の名前)

(47) いざ、さらば。

○ソレジャー シツレイシマス。それでは失礼します。

(48) ささ、ご遠慮無く、召し上がってください。

○サー サー、下ーゾ 下ーゾ。さあさあ、どうぞどうぞ。

(49) さて、そろそろ一服しませんか。

○サーテ、ソロソロ ヤスンベーカーノ。さて、そろそろ休もうかね。／ ○サーテ、ヤスムカー。(さて、休むか)

(50) これこれ、ちょっと静かにしなさい。

○チョット チョット、シズカニ シロヨー。ちょっとちょっと、静かにしろよ。／
○ホレ ホレ、シズカニ シロー。ほれほれ、静かにしろ。

(51) おい、こら。万引きをしてはいけない。

○ヨーツ、アンタサー。よおっ、あなたさあ。

(52) おどりゃあ。いい加減にしないか！

○ホレッ、チンカイ ユヤー ワカランダヤー。ほれっ、何回言えば分かるのだよ。

(53) おのれ、裏切りやがったな。

○コフヤロー。この野郎。

(54) どっこい。その手には乗らない。

○ソーク トンヤガ オロサネーヨ。そうは問屋が卸さない。

(55) どうだ、参ったか？

○ドーダ マイッタカ。どうだ、参ったか。

(56) せいひの、よいしょ！

○セーノ。せいひの。

(57) ようい、どん！

○ヨーイ 下ン。ようい、どん。

(58) いっせいひの、で！

- イッセー アー ㄱ。いっせいの、せ。
- (59) よいしょ、よいしょ、もう一息だ！
- ヨイショ ヨイショ ハー イマ チツダ。よいしょよいしょ、もう、もう少しだ。
- (60) うんとこしょ、どっこいしょ。もう少しだ。
- セーノ セーノ セーノ、イマ チツダ。せいの、せいの、せいの、もう少し。
- (61) わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。
- ワッショイ ワッショイ。わっしょい、わっしょい。
- (62) はじめはぐう、じゃんけん、ぼん！あいこでしょ。
- チッカ ン ポン、アイコデ ショ。ちっかっば、あいこでしょ。
- (63) きをつけえ、まえへならえ、なおい。
- キオツゲ、マエー ナラエ。ナオレ。気をつけ、前に倣え、直れ。
- (64) きりつ、れい、ちやくせき。
- キリーツ、チューモーク、レイ。チャクセキ。起立、注目、礼。着席。
- (65) ばんざい、ばんざい。やった、やった！
- バンザーイ、ヤッター。万歳、やったあ。
- (66) えいえいおう。頑張るぞ。
- エイ エイ オーッ、サー ガンバルゾー。えいえいおうっ、さあ頑張るぞ。
- (67) 中村君の誕生日を祝して、かんぱい。おめでとう。
- カンパーイ、オメデトー。乾杯、おめでとう。
- (68) やっほう、やっほう。
- ヤッホー。やっほう。
- (69) ふれえ、ふれえ、白組。
- フレ フレ シーローダーミ。ふれえふれえ、白組。
- (70) おにはそと、ふくはうち。
- オニワー ソト。フクワー ウチ、フクワー ウチ。鬼は外。福は内、福は内。
- (71) べらぼうめ、とんでも無い子だ。
- マツタク、ドーショモ ネーナー。まったく、どうしようもないなあ。
- (72) それみたことか、わんぱく坊主。
- ホレ ミロ、コア ガキメラガ。それ見ろ、この餓鬼どもが。
- (73) ざまあ、みろ。いい気味だ。
- ザマー ミロ。イー キビダ。ざまあ見ろ。いい気味だ。
- (74) ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。
- チッキショー。畜生。
- (75) このやろう。どうしてくれようか。
- シーツ、アッチ イダー。マツタク ドーシテ クレバーカ。しいいつ、あっちに行

け。まったくどうしてくれようか。

(76) たわけ、ふざけた事を言うんじゃない。

○オーク ソラッコト ユーナ。おおく、ふざけたことを言うな。 / ○マツダケ
ソラッコトベ ユイヤガッテ。まったくそらっことばかり言いやがって。

(77) ばかやろう、いい加減なことを言うな。

○コノヤロー ザレゴト ユーナ。この野郎、戯れ言を言うな。

(78) あなかま、静かにしなさい。

○ア ヤカマシー、ダマッテロ。ああ、喧しい、黙っている。

(79) しいっ、静かにして！

○シーッ。しいっ。

※無声で長くのばして発音する。

(80) ちちんぷぶい、蛙、蛙、生き返れ。

×無回答：蛙を生き返らせるときの言い方は知らない。しかし、チチンブイブイは、子供が体のどこかをぶつけて痛みを訴えたときのおまじないとして、次のように用いる。

○チチン ブイブイ イタイノ イタイノ トンデゲー。ちちんぷいぷい、痛い痛い
いの飛んでいけ。

(81) あっかんべい、鬼さん、こちら。

○アーカンベ。あっかんべい。

※「アーカンベ」類の表現は、「お前の言うような、そんなこと、言うことがきける
か、馬鹿野郎」といったニュアンスで、次のように用いられることが多い。

○アカンベツトガ ショッペーヤ。

(82) あっばれ、お見事。立派です。

○ア サスガダチ。ああ、流石だなあ。

(83) でかした、でかした。日本一。

○ア サスガダチ。ああ、流石だなあ。

(84) しっけい！すみません。

○シツレイシマシタ。失礼しました。

(85) あばよ、達者でな。

○ジャンナー、デンキデナー。ではね、元気でな。

Ⅲ. 総括（まとめ）

①「ア（ああ）」は、「Ⅰ自己の自発的な行動を立ち上げる」場合にも、「Ⅱ応答のための発話を立ち上げる」場合にも、「Ⅲ他者との関係を立ち上げる」場合にも、あらゆる場面で多用されている。音節は同じでも、使用される場面や意味合いによって、長さ、高さ、強さなどの音調に差がありそうである。アクセントの高低だけにとどま

らない、音声に関する詳細な情報を記述する必要があると考えられる。

- ②「Ⅰ自己の自発的な行動を立ち上げる」ために用いられる立ち上げ詞では、代表的なものとして、新たな行動を起こすときに自分に向かって発する「サーテ（さて）」「サテト（さてと）」、悔しさを表現する「コノヤロー」「クソッ」、疑問を表現する「アレ アレ」「アレー」などの表現形式や、気合いを表現するための促音の挿入などが上げられる。いずれも、日常生活の中で頻繁に用いられていることが観察できる。
- ③「Ⅱ応答のための発話を立ち上げる」ために用いられる立ち上げ詞では、不満や怒りをぶつける場合（調査項目 29～39）に、より一層群馬県方言らしさが醸し出される表現形式が目立つ。「～ばかり」を表すべー、「～ない」を表すネー、「～だろう」を表すダンベ、動詞に付いて乱暴な言い方を作り出す～ヤガルなどである。
- ④「Ⅲ他者との関係を立ち上げる」ために用いられる立ち上げ詞では、「チョット」「ヨー ヨー」「サー サー」「ホレ」などが見られ、それぞれが細かなニュアンスの違いを表して使い分けられていることがうかがえる。かけ声の表現（調査項目 56～70）では、形式に特徴的な様相は見られないが、いずれの表現形式も、他者との一体感を求めようとするリズムのいい音声表現で実現されている。

（あらい さえこ 群馬県立女子大学非常勤講師）